

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	宮城県
再委託先名	岩沼市

1. 事業推進の体制



推進地域2地域を予定していたが、震災の影響により1地域が辞退になった。県教育委員会としても検討委員会等開催することが困難になってしまったため、推進地域における検討委員会の構成員として参加し、推進地域の取組の支援を検討するとともに、宮城県における栄養教諭を中核とした食育推進の方向性についての検討を行った。

2. 具体的取組等について

テーマ1 (宮城県)	学校における食に関する指導の普及啓発のための取組
<p>(1) 実態調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査内容：食に関する指導の全体計画の整備状況についての実態調査を実施した。 全国学校給食週間について取組状況の調査を実施した。 <p>(2) 食育推進検討会議について</p> <p>本年度、県教育委員会での開催が難しくなったため、推進地域での検討会議に県教育委員会担当者が参加し、事業推進の助言など行いながら、県内の食育推進の在り方についても話し合った。</p> <p>(3) 研修会の開催（年2回）</p> <p>学校給食を「生きた教材」として活用した食に関する指導の推進を図っていくためには、その土台となる安全な学校給食の提供が不可欠であることから、衛生管理の徹底を図るための研修を行った。また、東京電力福島第一原子力発電所の事故後、放射能について様々な不安が高まっていることから、放射能の基本的な知識や健康への影響について理解を深めるための講演や、食育推進検討委員会等体制づくりの在り方や、幼稚園・小学校・中学校の連携、地域連携しながらの食に関する指導の実践について実践発表を通じた研修を行うことにより、食に関する指導及び学校給食の普及・充実を図った。</p> <p>学校給食研修会の開催</p> <p>学校給食関係者を対象とした研修会を開催し、今年度配付された「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」に沿った内容の講演と県内の食中毒の発生状況等報告などを行い、「安全な学校給食の提供」の提供を図り、「生きた教材」としての学校給食の充実を図った。</p> <p>学校給食研究協議会（食に関する指導推進のための研修会）の開催</p> <p>小中学校等教職員及び学校給食関係者を対象とした研修会を開催し、放射能について基本的な知識や健康へ</p>	

の影響について理解を深めた。また、昨年度の当事業の推進地域における実践発表を行い、県内における食育の推進を図った。

(4) 推進地域の指定

栄養教諭が配置されている地域を推進地域に指定。地域の実態に合わせてテーマを設定し、学校・家庭・地域の連携を図りながら課題解決に向けた実践的な取組を行った。

具体的な内容については、推進地域からの報告によるものとします。

数字で変化のあった事項について

1 実態調査の結果について

- ・食に関する指導の全体計画の整備状況

	H20.10.1 現在	H21.5.1 現在	H22.5.1 現在	H23.5.1 現在
小学校	87.8%	96.2%	99.3%	99.1%
中学校	78.4%	89.5%	95.8%	98.1%

2 研修会の開催について

- * 学校給食研修会（参加者へのアンケート調査の結果）
 - ・講義については、参加者のほぼ100%が「とても役立つ」「役立つ」内容であったと回答している。
- * [研修会参加者の感想]
 - ・私たちの衛生管理だけでは防げないこともあるが、そんな中でも、原因が明確であることは大事なことだと思った。ただ、もちろん食中毒を起こさないよう、起きないように自分たちの中で精一杯衛生面で気をつけたい。
 - ・衛生管理に関する情報を第一線の方に教えていただける、このような研修会はとても大切で、又、定期的に必要だと感じた。調理員全員に直接聞いてほしいと感じた。
- * 宮城県学校給食研究協議会（参加者へのアンケート調査の結果）
 - ・講義については、参加者の約9割が「とても役立つ」「役立つ」内容であったと回答している。
 - ・実践発表（当事業の前年度推進地域）については、参加者のほぼ100%が「とても参考になった」「参考になった」と回答し、約8割が「ぜひ取り組みたい」「できれば取り組みたい」と回答している。
- * [研修会参加者の感想]
 - ・講演について：原発事故以来、どの情報を信じたらよいか分からず、不安な日々を過ごしている人も少なくないと思います。正しい知識を身に付け、過剰反応をしないように心がけて行かなければならないと思いました。
 - ・実践発表について：中学校の実践例を紹介していただきたい。
 - ・実践発表について：学校全体として食育に取り組むためには、栄養教諭の配置が大きいと思う。もっと採用数を増やしてもらえよう、協議会からも教育委員会に話をしてほしい。

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

1 食に関する指導の全体計画の整備について

- ・学習指導要領の移行に伴い、小学校・中学校共にほぼ100%の整備状況となった。整備状況については、研修会等通じて周知し、まだ作成していない学校への呼びかけも行ってきた。今後は、指導計画が適切に作成・実施されているか実態把握に努めていく必要がある。

2 研修会の開催について

- ・年2回の研修会を「学校給食管理」に関する研修会と「食に関する指導」に関する研修会に分け、対象者を絞っている。特に「食に関する指導」に関する研修会には、教職員も参加しやすいよう内容を工夫し、食育の推進や校内体勢づくりに役立っている。

- ・「学校給食管理」に関する研修会では、本年度、文科省から配付された「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」の内容を中心に講演を行った。配付された資料の周知徹底が図られ、参加者へのアンケートの結果を見ても、ほぼ100%が「大変役に立つ」「役に立つ」と答えている。

3 推進地域の指定

- ・栄養教諭を中核として取り組む体制整備のため、栄養教諭が配置されている地域を食育推進地域に指定し、実践研究を行ってきた。市教育委員会が中心となり、体勢づくりを行った結果、実践中心校での取組を、市内の全ての学校に広げ、域内の食育推進を図ることができた。次年度の研修会において、実践発表を行い、更に他の地域の食育推進に繋げていきたい。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

本年度、東日本大震災の影響により、推進地域1地域の辞退、また、県教育委員会としても震災復興に関わらない事業については必要最小限で行わざるを得なくなったため、当初の計画とは大きく変更になってしまった。

発災後、給食を一時中断した市町村がほとんどで、給食開始時においても約43%の市町村では「パンと牛乳」等の簡易給食となっていたが、徐々に回復し、夏休み明けには、91%の市町村が完全給食の提供ができるまでに回復した。

県教育委員会で行った、全国学校給食週間の実施状況調査の報告を見ると、そのような中であっても、それぞれの市町村のできる範囲で、食に関する指導が絶やさず行われている様子が伺え、大変喜ばしいことだと思っている。「給食が実施できることで、学校生活が落ち着いた」という声もあり、学校給食の意義について改めて考える機会になった。

ア 指導計画について

- ・県教育委員会としては、今後、指導計画が適切に作成・実施されているかについて、実態の把握に努めていく必要がある。
- ・各学校においては、今後も食の重要性、心身の健康、食品を選ぶ力、感謝の心、社会性、食文化の6つの内容をふまえ、各教科、特別活動、総合的な学習の時間等との関連を図りながら、学校や地域の実態に応じたものとなるよう、実践をとおしてさらに内容を検討していく必要がある。
- ・発達段階に応じた継続的な指導としていくために、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の連携を更に図っていく必要がある。

イ 指導内容の充実について

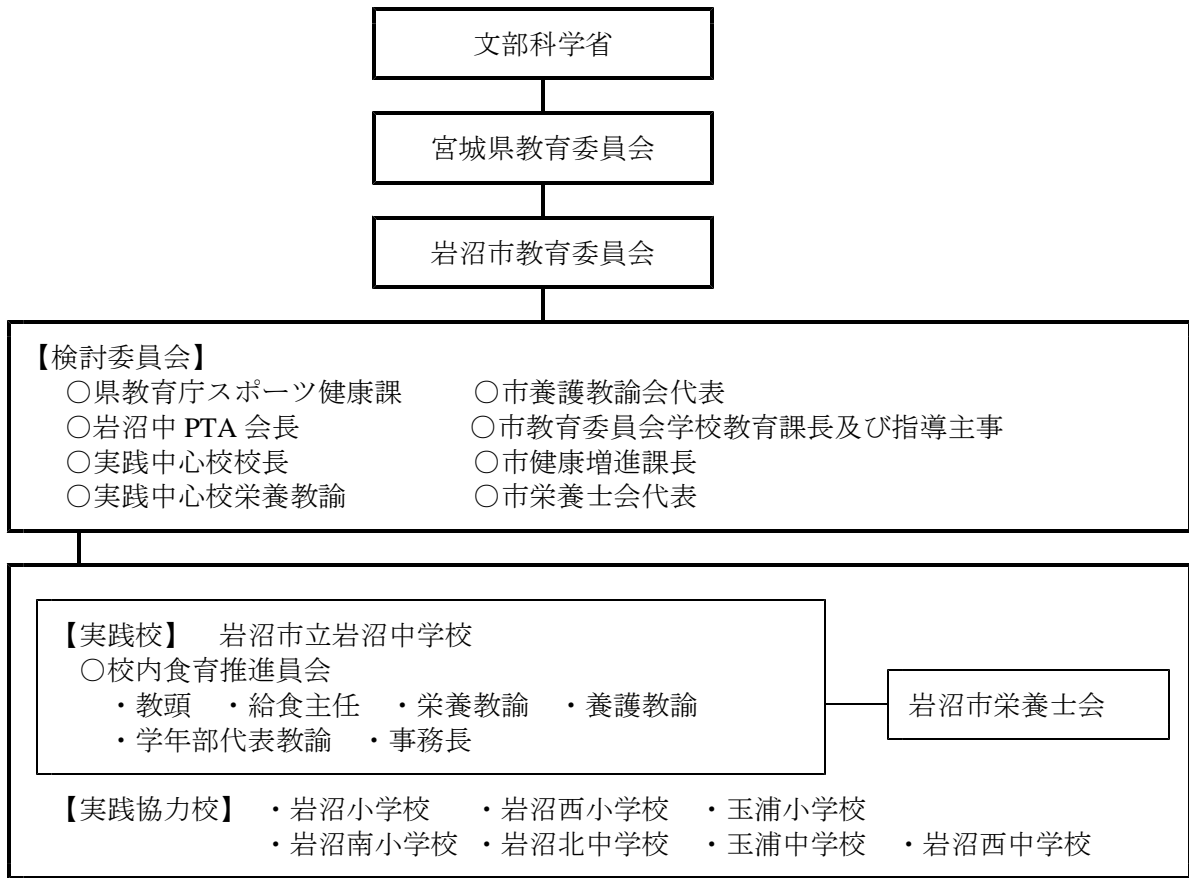
- ・食育推進検討会議等を通して、県としての食育推進の方向性を検討していく必要がある。
- ・栄養教諭連絡協議会を通して、栄養教諭を中核とした食育の推進の成果と課題の把握に努めていく必要がある。
- ・食に関する指導の進め方等について、教職員や学校給食関係者を対象とした研修会を開催するとともに、情報発信を充実させていく必要がある。

ウ 学校給食の更なる充実について

- ・学校給食を「生きた教材」として活用するためには、安全でおいしい学校給食の提供は不可欠である。それぞれの給食施設において工夫を凝らして実施されているところではあるが、実態の把握に努めながら、研修会での講演や実践発表により、更なる学校給食の充実を目指す必要がある。

再委託先名	岩沼市
-------	-----

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1	各教科における食に関する指導の充実	
<p>1 児童生徒への食に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○栄養教諭・学校栄養職員と教諭が連携した計画的な食育授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・教科や総合的な学習の時間などにおける授業 		
 <p>料理カードでの授業風景</p>	 <p>生徒が作ったお弁当</p>	 <p>家庭科での授業風景</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○給食時間の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・正しい食の在り方や食習慣についてのクラス巡回指導 ・放送による食育指導 ・ランチルーム（市内3校）での効果的な食育指導 ・調理員によるクラス訪問 		

○朝の活動時間や学年集会における指導

- ・牛乳の残量が多い実態から、骨の成長とカルシウムについて指導（3年生）
- ・貧血検査の事後指導（2年生）
- ・いい歯の日にちなみ、11月に咀嚼指導（1年生）
- ・受験期の食事について（3年生）



咀嚼指導

○農業体験宿泊学習（2年生）



畑で大根収穫



農業体験学習



稲刈り体験学習

○校内餅つき・芋煮会（1年生）

○掲示資料等による指導

テーマ2 地域の産物・食文化等の理解と推進

1 地域の特性を生かした学校給食献立の工夫

- 地場産品を用いた郷土料理の実施
- 地場産品を用いたオリジナル料理の実施
 - ・米粉麺を使った料理や岩沼の野菜を使った餃子など。



岩沼の米100%の米麺



岩沼産米粉ワンタンスープ



たまねぎの展示

テーマ3 家庭、地域への効果的な啓発の推進

1 食に関するアンケートの実施

- 現状を把握し、各学校における食に関する指導や市内全体の取組に反映
 - ・結果の分析と考察
 - ・結果と考察については保護者に情報発信
 - ・実践協力校にも情報提供

2 家庭・地域との連携

- 市内8校の給食だより(食育だより)の充実
- 岩沼市「健幸(けんこう)まつり」への協力と学校給食への理解
 - *「健幸まつり」とは、健康で長生きできる環境づくりのための運動
 - ・各学校における食育教育への取組についてのパネル掲示

- ・食育体験指導の実施
- 年2回のいわぬま健幸運動への参加
 - * 「いわぬま健幸」とは、児童生徒の健康保持増進と食事、運動、休養、睡眠等の調和のとれた生活習慣の確立に向けた啓発運動で7月と11月に実施。
- 授業参観日に料理紹介（作り方の説明・レシピの配布・試食等）
- 市内8校の食育活動等を岩沼市の広報にて紹介
- 各校のPTA 広報誌での食育指導

3 講演会の開催

- スポーツと栄養に関する指導（PTAにも周知）
 - ・仙台大学の教授による講話
 - 演題 「スポーツと栄養 ～食事のバランス～」
 - 講師 仙台大学 教授 藤井 久雄 氏
 - ・各部活動への食生活指導
 - ・家庭での食に関する意識の高揚を図る。



各部へスポーツと栄養指導風景

4 市内小中学校の保護者のリーフレット配布

野菜を食べて、バランスのとれた食事を！

岩沼市教育委員会
岩沼市学校栄養士会

教科



家庭科(1年)食事の計画を立てよう

部活



部活動ごと栄養指導

岩沼市の取り組み
岩沼の子どもたちは「健幸な食生活」を意識しています！

* 生徒の感想 *

新人戦に向けてたんぱく質、糖質をしっかりと摂りたいと思いました。今後、スナック菓子やインスタント食品をなるべく減らし、食事のバランスに気を付けて、テニスを頑張りたいです。

「バランスのとれた食事」をする人増加中！
(平成23年12月調査)

バランスのとれた食事をしている人

小学生	40.3%	(26.0% 増加)
中学生	34.3%	(21.7% 増加)

どうして食べないの？
朝食に野菜料理を食べない理由

1. 食卓に準備されていないから
2. 時間がないから
3. 食欲がないから

* 保護者の声 *

・朝は忙しく、子供も作っても食べなかつたりして出さなくなりましたが、朝食に野菜をなるべく出したいと思いました。

・夜のうちに調理するなどして、朝食に出したいと思っています。

朝食に野菜料理を！
(平成23年5月調査)

朝食での野菜摂取不足

小学生	2人に1人
中学生	3人に2人

* バランスのとれた食事をしている人

小学生	14.3%
中学生	12.6%

岩沼市の取り組み

5月 学活(2年)しっかり食べよう朝ごはん(南小)

6月 第1回いわぬま「もぐもぐ」通信発行

7月 部活動ごと栄養指導(岩中)

8月 総合(小4)給食の残食について(岩小)

9月 給食試食会(岩小・南小・岩中・西中)

10月 第2回いわぬま「もぐもぐ」通信発行

11月 貧血と鉄分について(岩中・北中・西中・玉中)

12月 いわぬま健幸まつり

1月 学校給食週間

2月 第3回いわぬま「もぐもぐ」通信発行

学校給食

大人気「カミカミサラダ」

校内掲示

栄養指導

生徒に大人気！「えのき入りおひたし」岩沼産の小松菜使用。

委員会

PTA行事

朝会にて

貧血指導

残量調査

給食試食会

給食週間

テーマ1～3に共通する具体的計画

1 食に関するアンケートの実施

○食生活実態調査（年2回）

＊第1回食生活実態調査 平成23年5月～6月実施

＊第2回食生活実態調査 平成23年12月実施

・市内（玉浦小・中学校を除く：東日本大震災で学校が被災したため）小学校5年生及び中学校2年生を対象にアンケートを実施。

・朝食は毎日食べているものの、約80%の児童生徒が朝食での野菜不足が第1回食生活実態調査の結果から分かった。

・朝食をバランス良く食べている人は、授業に集中して勉強できている割合が高く、「とても集中」「まあまあ集中」を含めると小学校では85.5%（1回目調査結果75%）、中学校で78.4%（1回目調査結果71%）ということが分かった。

・「バランスのよい朝食をとっている」小学生が26.0%、中学生が21.7%増加した。

○結果報告及び指導

・いわぬま「もぐもぐ」通信にて、年3回実施した。

・給食だよりやランチルーム指導、昼の放送、掲示資料等で啓発した。



いわぬま「もぐもぐ」通信

数字で変化のあった事項について

1 栄養指導を聞いた生徒の感想について

・栄養指導の内容で牛乳の大切さがわかったと約92.9%が回答
（その中で、とても大切だと感じた生徒 65.9%）

2 スポーツ栄養についての指導を聞いた生徒の感想

・日頃の食事の大切さがわかったと約100%が回答
（その中で、とても大切だと感じた生徒 78.6%）

3 野菜料理の試食及びレシピの配布について

・この企画は参考になり良かったと100%が回答
（その中で、とても参考になった保護者 87.1%）

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

1 指導計画の検討・作成

・「年間計画事項」を作成し、栄養士会で検討することにより、岩沼市全体で食育を計画的に実施することができた。

・計画事項を校内の指導委員会で検討し、職員会議で全職員が内容を把握することで、食育の推進を着実に進めることができた。

2 各教科・領域等における指導について

・家庭科「食事の計画を立てよう」において、夏休みの課題にお弁当を作成させることで、食に関心を持つ生徒が増えたり、お弁当作りの苦労を実感し親へ感謝するなど、今後自立する生徒たちにとってよい経験となった。

3 スポーツと栄養に関する指導について

- ・生徒の興味関心のある内容であることと、授業とは違う雰囲気ですべて活動ごとに少人数で話しを聞くことにより、生徒の理解度や今後の生活に生かそうとする意欲的な姿勢につながった。

4 スポーツと栄養に関する講演会について

- ・スポーツ栄養を専門とする近隣大学の先生による講話ということで、積極的に質問をする生徒の姿がみられ、運動部以外の生徒や保護者も興味関心を持ちながら、運動と栄養・休養の大切さを再確認することで、日頃の生活を振り返り今後に生かそうとする姿勢につながった。

5 野菜料理の試食とレシピの配布について（保護者対象）

- ・食生活実態調査結果をもとに野菜料理の試食及びレシピの配布を行うことで、家庭での食事を振り返るきっかけとすることができた。また、保護者の方と日頃の食事について気軽に話しをすることができ、家庭との連携を図る一助となった。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 児童生徒の健康増進を育むため、望ましい食生活習慣を身に付けられるよう、食生活実態調査結果をもとに今後も関係職員と連携し、継続的な食育指導の必要性を感じている。

*目標値と結果について

- ・バランスの良い朝食をとっている小学生
14.3% → 目標値28.0% → 結果40.3%
- ・バランスの良い朝食をとっている中学生
12.6% → 目標値26.0% → 結果34.3%
- ・朝食に毎日野菜料理（副菜）を食べる小学生
24.4% → 目標値48.0% → 結果22.1%
- ・朝食に毎日野菜料理（副菜）を食べる中学生
18.3% → 目標値36.0% → 結果19.9%

- 関係職員と連携しながら、児童生徒への効果的な指導に取り組んできた結果、『バランスの良い朝食（主食＋主菜＋副菜＋汁物）をとっている』小学生が26.0%、中学生が21.7%増加した。
- また、1回目の調査で朝食における野菜料理摂取者が少ないことから野菜料理（副菜）に着目し、『朝食に野菜料理を毎日食べているか』を比較したところ、小学生では2.3%減少、中学生が1.6%増加という結果だった。
- しかし、野菜料理（副菜）を「毎日食べる」と「食べる日が多い」に答えた児童生徒を対象に比較すると、小学生では48.5%から55.5%（7%増加）に、中学生では39.8%から43.8%（4%増加）していることがわかった。
- 以上のことから、野菜料理を毎日食べていないが、意識して野菜料理を食べようとする児童生徒が増えていることが明らかとなった。